

【評定(達成度)の目安】

Table with 2 columns: 達成度 (A, B, C, D) and 指標 (満足できる, どちらかという満足できる, どちらかといえば課題がある, 課題がある)

《校訓》 明朗・闊達 自主・力行

《教育目標》
う 打ち出す力 挑戦する生徒
ち 智恵を出し合い心耕す生徒
で 伝統を大切に地域を愛する生徒

《学校教育の基本》

時代を生き抜く力を育む
子どもが安心して学ぶことのできる環境を整える
教育組織を改革する
社会全体で子どもを育てる

Main evaluation table with columns: 大項目, 中項目, 小項目, 自己評価 (小項目評価, 中項目評価, 現況), 学校関係者評価 (中項目評価, 意見・提言等), 今後の学校改善に向けて

大項目	中項目	小項目	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて			
			小項目評価	中項目評価	現況	中項目評価		意見、提言等		
2	7	① 家庭・地域との連携	18	保護者の子育てに対する積極的な支援ができた。	A	A	・入学式での説明や通信を通して、子ども支援コーディネーターの役割や中学校の取組について積極的に情報発信を行い、家庭との連携を推進することができた。子育てに不安を持つ保護者に対しては、思いに寄り添うと同時に、SCや専門機関と連携した対応をとることができた。	A	・今後も最大限協力をしていきたいと思っております。保護者の皆様に対する子育て支援は最も重要だと思われまので、今後ともよろしくお願ひいたします。 ・tetoruの導入はとてありがたい。また、欠席、遅刻等の連絡もwebを使えることも保護者としてありがたい。ホームページを充実させてくださっており、わが子の学年をこえて学校全体の取り組みが分かる。校長先生のコラムも毎回話題が多岐で面白いです。 ・今後いろいろと開催されるであろう地域行事に、個人としても中学生にも参加してほしい。 ・多様な保護者に対応される先生も苦労が多いと思いますが、ICT活用能力ともに多様な保護者と連携する資質能力も大切になるように思います。多様な保護者が参画できる柔軟な教育組織等をお願いします。地域防災活動への生徒参加の検討をお願いします。 ・防災教育を拡充し災害の備えの意識を広めていただきたい。	・生徒が抱える悩みの多様化、複雑化から、子育てに不安を抱えている保護者が多い点を踏まえ、教育相談や携帯安全教室の取組、SCによる支援に関する情報等を積極的に発信し、家庭との連携の強化をより一層図るようにする。
			19	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域の人材を活用することができた。	A		・ホームページのリニューアルにより見やすくなり、更新頻度も増えた。連絡アプリtetoruの導入では、保護者が確実に情報をキャッチできるようになった。また、あいさつ運動など、保護者の方々や地域の方々の協力をいただき、生徒を地域全体で見守っていくことができた。あいさつについては、教師が積極的に行うことで、学校全体としてコミュニケーションを大切にしていこう姿勢を示すことができた。		・引き続きホームページ等を活用し、学校の取組等を発信する機会を多く持つようにする。地域の方々には、あいさつ運動やボランティアでの図書館の運営、花植えなどに協力していただいているので、コミュニティ・スクールの仕組みを活用しながら、地域の方々为学校に関わってくださることを生徒にもさらに発信していく。	
			20	防災教育を推進し、安心・安全な学校づくりに努めることができた。	A		・消防署の方の指導のもと避難訓練を実施する等の防災教育を実施することができた。		・防災教育として、地域で行われる自主防災活動への生徒の参加の可能性を模索していきたい。	
		② 保幼小中の連携	21	子どもの校種間交流や教員の出前授業を実施することができた。	B	B	B	・打出サミットは、学区内の各校の取組を共有し、リーダーの育成を目指した活動をオンラインを活用して取り組むことができた。 ・打人教各部会の取組は、コロナ禍で担当者のみの活動となったが、保幼小中高連携事業として交流を図ることができた。 ・例年通り、小学校に出向き、授業参観や情報交流、出前授業等を実施し、連携を図った。今年度から小中の連携を強化するため、2学期後半から月1回程度小学校へ授業参観にいき（「ふらっと授業参観」）、児童生徒の様子を交流する回数を増やすことができた。	・コロナ禍で直接的な保幼小中の交流が困難な状況だと思ひます。保幼小と連携を見直して、学習履歴(スタディログ)等、教育データを活用した個別最適な学びの充実を期待しています。 ・「今後の学校改善に向けて」の実践を期待します。「現況」では十分に評価できると思ひます。 ・保幼小中の連携は非常に大切と思われまので、先生、生徒それぞれで交流の場を持つよう努力してください。 ・少子化により、保幼小中の連携は大変有意義であり、様々なチャレンジを望みます。 ・コロナ禍、子どもたちの交流はまだ難しいが、先生方の交流、連携が密になることは有意義だと思ひるので、活発に行ってほしい。入学前の子どもたちの来校が無くなってしまったことは保護者として残念である。学校公開日などで部活動見学などができる機会も検討していただきたい。	・学区内の各校の取組のオンライン交流を継続していく。また、交流内容について校内で発信し、全校生徒で共有していく。 ・打人教の取組や、授業公開、担当者会を積極的に行って、各校の実践や校種間の情報交流を校内で共有し、保幼小中で連続した子どもの育ちにつなげていく。
			22	校種間の合同研修会(ブロック研等)に参加できた。	B			・ふらっと授業参観による児童生徒の情報交流は有益であるので、月1回程度の実施を年間通して行うようにしていく。		
			23	校種間の授業公開やカリキュラム研究ができた。	B			・さらに情報の共有、共通行動を確実なものにするために、主事、子ども支援コーディネーターへの報連相を密にする。 ・生徒一人ひとりの居場所づくりを行い、安心して学校生活を送れるように、日常の声掛けや機を逃さない教育相談を進めていく。 ・生徒指導通信の発信を含めて、学校だけでなく、家庭、地域、関係機関と連携をとり、生徒を多くの目で見守ることをこれからも続けていく。		
	8	① 生徒指導体制の充実	24	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導への全校体制がとれた。	A	A	A	・未然防止、早期発見のために各学年、情報の共有をし、迅速な対応を進めることができた。長期休業中には、タブレットでしおりに記入することで、生徒の状況を把握することができた。 ・長期休み後に教育相談を実施し、生徒の様子を聞くことで、生徒と担任、学年の教師とのコミュニケーションに機会を増やした。各クラスの様子を担当同士が積極的に交流することができた。 ・生徒の様子について家庭、関係機関との連携を密に取り、指導の方向性を相談しながら協力して指導にあたることができた。	・多くの目で見守ることはとても大切だと思ひます。子どもたちの内面を探ることは難しいし、親でも向き合うことがなかなかできていないことが多くみられるのかもしれない。トラブルとまではいかなくても、人間関係で悩んでいる子など、子どもたちを取り巻く環境が(心も)複雑だと思ひし、援助も難しいと思ひます。親として、中学時代の我が子にしっかり向き合っていかなければと感じている。 ・安心・安全な学校生活を送れるよう、日常の声掛けを注意深くして子どもたちを見守ってあげてください。 ・一人ひとりを大切に、寄り添う指導・支援を今後もお願いします。 ・不登校生徒が増える傾向であると聞かれています。生徒の支援ニーズの早期把握や、今後もSC等と連携し、すべての先生方がSCの資質を備え、指導相談体制の充実をお願いします。 ・基本は家庭での初期教育や指導が大切だが、環境により無理な場合は学校でのコミュニケーションが重要と思ひます。打出中は先生方の協力的な指導が見られるので有り難い。 ・地域団体らと見守りの目を絶やさず増やしていきましょう。	・特別支援を必要とする生徒は、本人だけでなくその保護者も悩みを抱えておられることを念頭に置き、共に考えていく姿勢を大切にしていこう。
			25	生徒指導、教育相談体制を確立し組織的に推進することができた。	A			・支援を必要とする生徒について、適切な支援をすすめるため、関係機関との連携をさらに深め、専門家のアドバイスを生かして支援していく。できれば、2学期(または1学期)に、専門家を招聘して“見立て・気づき”に関する研修会を実施できるように計画する。 ・支援計画を全職員で共有し、教職員の意識をさらに高めたい。合理的配慮について研修をすすめて、組織として支援する力をつける機会を設ける。		
			26	家庭・地域・関係機関との連携による指導を図ることができた。	A			・「楽しくない」と感じている17%の生徒に目を向け、授業や生徒との関わり方を見直し、生徒や保護者との信頼関係の構築に全教職員で取り組む。生徒が安心して学校生活が楽しいと感じられるように、きめ細やかな取組に努める。		
		② 特別支援教育の充実	27	保護者の悩みを聞く個別相談を実施し、作成した個別指導計画を活用することができた。	A	A	A	・個別の指導計画を立案するにあたって「目標」「評価」を共有することで、保護者との連携を密に行うことができた。 ・配慮の必要な生徒や学校生活への適応に支援を要する生徒について、関係機関からの助言をいただく機会を持ち、適切な支援につなげるとともに教職員の対応力の向上にもつなげることができた。 ・特別な支援を必要とする生徒が増加傾向にある中、支援の必要な生徒の情報共有と支援の方向性の検討を継続して行うことができた。また、学校生活支援員の見立てや気づきを担任や教科担当と共有することにより、よりよい支援のあり方について考え、実施することができた。	・全員が楽しいと思ひすることは無理だと思ひるので、80~90%が維持できた方がいいのでは。 ・多感な時期であるが、個々が自分の「楽しみ」を見つけて充実した3年間を送れることを願う。 ・今後とも、どうぞよろしくお願ひします。 ・安心・安全で楽しく学びの深まる学校を目指してください。 ・様々な課題がある中ですが、誰一人として取り残さなという思いで実践をお願いします。 ・ここが1番大切かなと思ひます。皆が楽しみな学校に期待します。	
			28	組織的・計画的な特別支援教育の体制を確立することができた。	A			・「楽しくない」と感じている17%の生徒に目を向け、授業や生徒との関わり方を見直し、生徒や保護者との信頼関係の構築に全教職員で取り組む。生徒が安心して学校生活が楽しいと感じられるように、きめ細やかな取組に努める。		
			29	関係機関と連携しながら相談活動を充実させることができた。	A			・「楽しくない」と感じている17%の生徒に目を向け、授業や生徒との関わり方を見直し、生徒や保護者との信頼関係の構築に全教職員で取り組む。生徒が安心して学校生活が楽しいと感じられるように、きめ細やかな取組に努める。		

9	学校満足度	30	生徒は学校に対して満足している。	A	A	・アンケート結果によれば、約83%の生徒、約87%の保護者が、学校生活を楽しいと評価している。	・全員が楽しいと思ひすることは無理だと思ひるので、80~90%が維持できた方がいいのでは。 ・多感な時期であるが、個々が自分の「楽しみ」を見つけて充実した3年間を送れることを願う。 ・今後とも、どうぞよろしくお願ひします。 ・安心・安全で楽しく学びの深まる学校を目指してください。 ・様々な課題がある中ですが、誰一人として取り残さなという思いで実践をお願いします。 ・ここが1番大切かなと思ひます。皆が楽しみな学校に期待します。	・「楽しくない」と感じている17%の生徒に目を向け、授業や生徒との関わり方を見直し、生徒や保護者との信頼関係の構築に全教職員で取り組む。生徒が安心して学校生活が楽しいと感じられるように、きめ細やかな取組に努める。
---	-------	----	------------------	---	---	---	---	--